



千代の古道（ちよのふるみち）とは、平安時代初期に京の都から嵯峨野の離宮へ通じた古い小径で、藤原定家や在原行平らが詠んだ歌には、春の嵯峨野の若菜摘みや里人の風景などが描かれています。

藤原定家	嵯峨の山 千代の古道 跡とめて また露わくる 望月の駒
在原行平	嵯峨の山 みゆき絶えにし 芹川の 千代のふる道 跡はありけり
藤原為家	里人も 千代の古道幾かへり 春の嵯峨野の菜つむらん